

ポイント18 漢字は幼児期にこそ

特別な意識はいらない

1930年以來、アメリカでは多くの学者がチンパンジーに言葉を教える努力を払ってきましたが、チンパンジー

はついに言葉を覚えることが出来ませんでした。チンパンジーは言葉が覚えられないので、何万年経っても少しも進歩がないのです。

言葉の習得こそ人類にだけ許された切り札的な能力で、これを伸ばすことこそ何事にもまして重要な能力ですが、この能力も幼児期を外したら、どんなに教育しても出来ないことが、フランスの言語心理学者ポール・ショシャルの調査で明らかにされています。

わが国の主要な文字は漢字です。だから、漢字力を養うことが何にもまして大切なのです。

その漢学力は、言葉と全く同じで、幼児期にこれを養い育てなかったら、あとでどんなに努力しても手遅れです。漢字力を付けるには別に難しいことはありません。

幼児が両親の会話を耳にしている間に、ひとりで言葉を覚えるよ

うに、漢字も、これを特別教えるのだという意識を持つ必要は全くありません。幼児は漢字を知りたがっています。だから幼児の目の届く所に漢字がたくさんあり、親がこれを声に出して読んでいけば、幼児はひとりで漢字を覚えます。教えようとすれば、かえって拒否し、覚えられないものです。

幼児は本来好奇心が強く、何事によらず知りたがっているのですから、強制する必要は全くないのです。好奇心をそそるような配慮が大切です。

コラム

部首 土

草木の芽が地上に出始めた形を象ったもので“つち”のこと。

【地】 “へび”の本字の也と土との会意形声字。へびのようになっている大地。